

## 地方創生推進交付金事業

## 成分調整野菜づくりで農業拡大プロジェクト

## (事業概要)

慢性透析患者数 32 万人の市場への進出を可能とする成分調整野菜を土耕栽培で取り組む技術を確認し、「大崎ブランド」として生産・販売することで他地域との差別化を図るとともに、農産物の高付加価値化を実現し、農業所得の向上や、就農者の確保を図る。

## (事業費)

8,000 千円（うち国庫負担額 4,000 千円）

## (事業実績)

## 1. 研究開発及び実証実験

## ○ 事業推進体制

推進主体 大崎町成分調整野菜研究開発推進協議会  
生産農家，鹿児島大学，大崎町 等で構成

## ○ 研究報告

## ① 野菜・根菜類を対象として、肥料調整や光源などの異なる栽培環境によって野菜成分を調整する栽培技術の開発

研究者 鹿児島大学 遠城，朴

研究内容

- 1) LED 光源照射を利用したほうれん草のハウス栽培試験
- 2) LED 光源照射を利用したナスのハウス栽培試験
- 3) LED 光源照射を利用したミニトマトのハウス栽培試験
- 4) 微量要素施肥による大根の栽培試験

## ② 野菜・根菜類の栄養成分分析

研究者 鹿児島大学 候

研究内容

- 1) LED 光源照射によるほうれん草の栄養成分・機能成分の変動
- 2) LED 光源照射によるナスの栄養成分・機能成分の変動
- 3) LED 光源照射による黄ミニトマトの栄養成分・機能成分の変動
- 4) LED 光源照射による赤ミニトマトの栄養成分・機能成分の変動

- 5) LED 光源照射による大根の栄養成分・機能成分の変動
- 6) 大崎町産のキャベツの栄養成分・機能成分の分析

③ 成分調整による野菜のテクスチャーや生体調節機能の比較

研究者 鹿児島大学 加治屋

上記の栽培試験については、町内の農業生産法人のもつ畑，ハウスで実証実験を行っている。

- 1) LED 処理により、苦味や渋みが多くなる野菜が多かった。
- 2) 同じ処理でも、野菜による感度が異なるため、成分や物性に与える影響は一律ではなかった。

総括

本研究により LED 処理や肥料調整による影響は、野菜によって改善するものもあれば、逆行するものもあり、品目ごとの検討が必要であると考えられる。